

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	平成 30 年度第 2 回松阪市健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時	平成 30 年 11 月 1 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分
3. 開 催 場 所	松阪市健康センターはるる 3 階健康増進室
4. 出席者氏名	(委員)◎小林昭彦、○長井雅彦、太田正隆、真砂由利、村田善清、 平岡令孝、山路由美子、酒井由美、小山誠 (◎会長、○副会長) (顧問) 植嶋一宗 (事務局) 白藤、平松、糸川、西浦、中野、森、田中、白木、中川、 田口、松葉、上阪、梶間、山崎
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 名
7. 担 当	松阪市健康福祉部健康づくり課 TFL 0598-20-8087 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

事項

- 挨拶
- 協議事項 (1) 平成 30 年度健康づくり事業報告について
(2) 平成 31 年度健康づくり事業実施計画(案)について
- その他

議事録

別紙

平成 30 年度第 2 回松阪市健康づくり推進協議会 議事録

日 時： 平成 30 年 11 月 1 日（木）13：30～15：10

場 所： 松阪市健康センターはるる 3 階 健康増進室

出席者：〔委員〕小林昭彦(会長)、長井雅彦(副会長)、太田正隆、村田善清、平岡令孝、
山路由美子、酒井由美、小山誠

〔顧問〕植嶋一宗

〔事務局〕(健康づくり課)白藤哲央、平松秀夫、糸川千久佐、西浦有一、中野恵美子、
森君代、田中拓也、白木智子

(地域振興局)中川幸美、田口靖子、松葉智子、上阪伸子、梶間望、山崎千恵子

配布資料：・第 2 回松阪市健康づくり推進協議会事項書

- ・委員名簿
- ・平成 30 年度健康づくり事業報告
- ・平成 31 年度健康づくり事業実施計画（案）
- ・「松阪市健康マイレージ」ちらし
- ・「まつさか子育てアプリ（まつプリ）」ちらし

議事録：

〈委員交代の報告〉

事務局：本年度松阪地区医師会役員改選に伴い、本協議会会長の野呂純一様が退任され、6 月
21 日付けで松阪地区医師会長の小林昭彦様に、健康づくり推進協議会委員を委嘱。

〈会長の選出〉

委員：小林委員にお願いしたい。

各委員：異議なし。

1. 挨拶 〈協議会長〉

2. 協議事項

(1) 平成 30 年度健康づくり事業報告

〈事務局より「平成 30 年度健康づくり事業報告」をもとに、上半期実績について概要を説明〉

会長：平成 30 年度の事業報告について、ご意見・質問はないか。

委員：報告で多岐にわたって健康推進のために努力しているとはわかったが、がん検診受診率をもう少し何とか上げるように努力する必要があると思う。確かに三重県内では松阪市は検診率が高いが数%の高さである。がんは早期発見・早期治療がされることと、進行がんの治療医療費の差は大きく、早期発見は非常に重大なことである。それをきちんと把握し、まず市長に認識していただく必要があると思う。例えば、早期乳がんは入院しても 20 万円くらいで退院でき、しかも腫瘍のところだけ取って治療が終わる。進行乳がんはお乳を全部取り、その後の抗がん剤治療も含めると長期入院となりその間仕事にも行けない、医療費はいっぱいかかり、抗がん剤の副作用もある。20%余りの検診率に満足せず、もっともっと前向きに検診率を上げることを考える必要がある。なぜならば、欧米では 70～80%の

受診率を誇り、それくらいに受診しないとお金がかかって大変だということを彼らはよく知っている。日本人は保険制度や、国民性として仕事を一生懸命やり仕事中に検査なんか受けてられないという風潮があるので、検診を受けようという気概が出てこない。政府は働き方の見直しでもう少し自分の体について、もっと自分のことを自分で責任をとって、早期発見をするようにと言っている。国は大体50%くらいの受診率を目標にしている。

例えばケーブルテレビの番組で、肥満やがん検診における経済効果、あるいは高血圧を早期発見・早期治療、塩分を制限することなどを流して資料を皆さんに見ていただくことで予防をする、そういう教育手段がもっとあると思う。一日の1時間・2時間とか決まった時間に定期的に今日は高血圧、今日は糖尿病という形で啓蒙活動としてテレビで流すのも1つだと思う。

例えば幼稚園、小学校の子ども達に色んなパンフレットを作って、肥満を予防するとお父さんやお母さんが元気で長生きしますよということを教える。家の中で家族会議の中で子ども達と親が「お父さんもっと健康診断受けて、いつまでも健康でいてください。」と話し合いができるような資料を作るのが必要だと思う。資料はWHOなどの機関がたくさん統計として出しており、経済効果についても資料が出ている。ぜひとも小学校や幼稚園、あるいは中学校以下の子ども達にパンフレットを渡して、毎年定期的に教育をする形、教育の場を作ってあげることが大事になると思うので、ぜひとも今までと違うところも目を移して、頑張って教育活動をしていただければいいと思う。

議長：ありがとうございます。予防の大切さ、経済効果のみならず健康な人生を歩んでもらうためには本当に大事なことだと思う。予防という観点で非常に大事な意見でした。

委員：その受診率向上について、まちづくり協議会での取り組みをご紹介させていただく。本年からまちづくり協議会の事業に参加しますと、抽選券を1枚差し上げており、毎月抽選会を行い、1等と2等の景品を当たった人に差し上げることをやっている。まちづくりの事業に参加した人に1枚ですが、市の検診は1回受診すると抽選券を5枚渡す。肺がんや大腸がん検診を受診すれば抽選券を10枚渡すということで、地区の受診率向上に役立つ取り組みを行っている。

議長：ありがとうございます。すごい取り組みだと思う。特定健診やがん検診を受けるチャンスを広げていただくと非常にありがたい。

委員：今後、受診率が昨年と比べてどのように上がったか、結果を報告したい。

議長：楽しみにしている。

委員：色々のご意見をありがとうございます。私どももがんをどのように予防していくかというのは本当に大きな課題だと思って、市長も色々な意味合いで政策につなげてきている。10月の胃がん撲滅元年の講演会では、やはり高齢者の方が多いという印象を受け、確かに健康について関心を持っていただくのは、高齢になればなるほど関心が高まっていくという傾向が確かにあると思う。そういう意味においては、やはり小学生・中学生の頃からが大事という意見について検討していかないと認識をした。それから、やはり健康なうちから色々なことに興味を持っていただくということで、11月から健康マイレージも始めることができ、色々な施策のなかで積み上げていくのが大事と思っている。

委員：ぜひとも実現を。高齢者はある程度自覚症状があるので病院にかかられる方は確かに多い。やはり教育は子どもの時にきちんと教育がされてるかがとても大事。若い時にきちんと身をもって覚えて、体で感じ取ったことは大人になっても覚えているだろう。そうすれば20年後の松阪市民が、子ども達が20歳30歳になっても教育を受けたことを頭の中に描いている。家族同士で話をしたということが意識にあることで、自分が歳をとったらこうしようという意識を芽生えさせる意味でとても大事なこと。特に市立の幼稚園、小学校に関しては、相当の努力をもって介入して外部からの色んな教育時間というのを学校は持っているはずなので、具体的に何年時の何月頃のいつに必ずそれをする決めておかないと、人が変わったらまたそれを忘れてしまうので計画案を作って、我々としては結果が結ばれて初めて努力というのは実を結ぶわけなので、やはり結果が見える状態で努力をと思う。

委員：お話をお伺いして、本当に子ども向けの教育が必要だと気づかされた。私は今子どもさんや親子相手にイベントや講座を開いており、これからそういう場面でも必要かなと感じた。具体的に例えば、松阪に数多くある各地域の子育て支援センターで、紙芝居の時間とか絵本の読み聞かせの時間を使いまして、ちょっと未就園児なのでどうか反応がわからないですが、例えばパパママが病気になったらどんな気持ちになるというような問いかけをして子ども達に考えてもらう時間があったらいいと思った。

啓蒙というか、乳がんの受診率が低いことについて、子育て世代はやはり子育てに毎日追われ検診をしないという状況にある。私の周りにも子育てや家事に追われて気づいたら乳がんになっていた、もしかしてこれから子育てできないかもしれないという方がすでに数人いるということは、また増加の一途をたどるのではないかとすごく怖いと思ったが、松阪子育てアプリ「まつプリ」が画期的にでき、私たちは物凄い便利だねと母親の皆さんとお話をしている。まつプリは地域とつながる、自治体情報や地域の施設イベントが手元に届いて便利ですが、ここで検診をもっとアピールするとか、このアプリでできるかどうかかわからないが、例えば検診したというプッシュボタンを押したら、何か反応が返ってくる、何かもらえる、抽選券があるとかでもっともっと啓蒙が必要かなと、このアプリをいかに使うかこれから考えられたらいいと思う。

顧問：県の事業でもある健康マイレージにご協力いただき、お陰様で松阪管内の1市3町はすでに始めており、県内の29市町は年度内には全て始まる。このポイントを貯めるのは、なかなか大変ですが、松阪市ではやはり検診受診や色んな講座参加や取り組みでポイントがもらえ、35ポイント貯めるのは大変ですが、貯めてしまえば“三重とこわか健康応援カード”がもらえ1年間使える。しかもその券を見せたら県内どこでも使えるメリットがあり、その時その時で特典も変わってくると思うが、ぜひ周知と活用いただきたい。県としても、これからは更に協力店を増やせるように努力していきたい。

議長：色んな形で市民の皆様の心に届くような手立て、子どもの教育も含めいかに健康について理解していただくか。私の方からも胃がん撲滅元年についてなぜ元年かというと、ピロリ菌が胃がんに関係するとわかっており、胃の粘膜は年齢とともに大人の粘膜に変わってしまうとがんになる可能性はゼロではなくなってしまう。20歳までの胃の子どもの粘膜

にピロリ菌を除菌し、ピロリ菌をいなくすればそのお子さんは一生胃がんにならない。であるならば、松阪にいる中学生全員に検査し、ピロリ菌が陽性なら除菌をしていなくなれば、松阪で育った中学生の方全員が将来胃がんにならない、松阪市から胃がんが出ないということで、今年から中学生全員の検診の中に取り入れた。検査を取り入れるにあたって、市からの助成が今年始まったということで、胃がん撲滅元年となった。この話をたまたま患者さんで中学生のお子さんをお持ちのお母さんに話をしたら、「そんなのだったら、みんなに言うたる」と。やはり色々情報を流しても、情報が素通りしていくことが多い。面と向かって細かく話をしたらその方に届いた。いかに届けるか行き渡らせるかがすごく大事と思った。委員の「家でみんなで話をしようよ」ということが非常に大事だと聞いていた。

松阪弁のラジオ体操が気になったが、運動での予防が色々あるが委員いかがか。

委員：今、三重県はBMI 指数が全国から比べると非常に優秀で肥満が少ないと聞いているが、松阪の肥満率は年々増えているのか横ばいなのか、かなり改善されてきているのか。というのは、私は何年も前から、朝食抜きは5倍太ると言ってきて、「先生、本当なの？」と言われてきたが昨日今日、名古屋大が朝食を抜くと太りやすく、第一の原因が体内時計が狂うことを言っていた。やっとならで嘘じゃなかったと。

朝食をとらない子は、松阪でもかなり多いように思う。この間も学会で発表を、昔はダイエットのテクニックは空腹時にやった方が運動するため体に貯めてある脂肪を燃やしてエネルギーに変えるから、糖尿病の方は別として、空腹時の運動の方がダイエットに効果があるということだったが、今は空腹時よりも捕食を少ししてから運動した方がいいと。この捕食は着火剤みたいなもので、空腹時の運動は脂肪が結構燃えにくく、少し捕食をした方が脂肪の燃えるきっかけになることを、健康運動指導士会でも指導をしているところである。子どもも大人も共に運動のテクニック、仕方を知らない人がまだまだ多い。

この間、野球監督との話で子どものリトルリーグでも、野球でもソフトボールでもキャッチャーをしてくれる子がいない。なぜならば、しゃがんだら起きてこれない、座ったり立ったりできない子が非常に多い。体の体幹の筋力だけでなく、脚筋力まで衰えてきている。これはもう一番大変なことで、ゲームはしたいけどキャッチャーはということで、やはり洋式のトイレが増えてきたせいもあるかもしれないが、基本的な体幹の筋力だとか股関節の柔軟度を小さい頃から教えていく必要があると思っている。

今こそ私は歩行力向上をやってほしい。これもこの間の学会で発表したが、2万歩または2時間歩いているから大丈夫だと言われる人がいたが、フラットなところを背中を丸めて何も考えずに歩くのは、例え2万歩でも3万歩でも、2時間でも3時間でも、これは運動ではなくて徘徊だと。その中に早歩きや大股歩きをどれだけ入れたかが機能向上のトレーニングであるので、市民の歩行力向上を願いたい。東京の人は歩くのが速い、鉄道からの乗り降りに階段を使っても、階段を一段飛ばしで歩く人もいてすごいなど。もう1つ東京は今、自家用車離れで数が減ってきている。今三重県は75歳以上の高齢者ドライバーが22,245人、その内の553人が認知症でも免許証の返納はしない。三重県は特に免許証がお守りのようになっている。大阪府が一番返納率が高いが、そういったところから見ても、病気もそうですが事故から守るための高齢者ドライバーに対する運動機能を何とか上げよ

うと、私も今安全運転管理責任者の担当をしているので、一番大事なのは歩行力向上だと。歩く力が増せば絶対に元気で長生きする。機会があったら歩行力向上も今まで以上に考えてほしい。

議長：予防という意味で運動の大切さ、ありがとうございました。

委員：名古屋大の話は今日の新聞に載っている。私はそれに対して少し反対もある。なぜならばネズミの実験で、ネズミに朝食べさせるか食べさせないかで、脂肪が増えるかどうかをみているが、人間の場合は単純な問題で朝食べられないのではない。この一番の原因は生活が不規則であること、夜の食事をきちんと5時か6時頃に食べられる人、ここにいる人は一人もいないと思う。昔の本を読むとカラスが鳴くから帰ろ、帰って暗くなる前に夕飯を食べていた。その後ちょっと体を動かして10時か11時頃に寝るのが普通の生活だが、今の標準的な家庭の生活は、夕飯は8時か9時にしか食べられない。胃袋は大体4時間くらい動く。明朝早く起きるため11時か12時頃横になったとしても、胃袋は動いている状態で寝ているから、まず睡眠が十分とれない、熟睡ができないと疲れがとれない。しかも胃がまだ酸が流れている状態で寝ているから、胃酸が逆流して逆流性食道炎などが起こって、朝起きた時に口の中が苦かったり、胸やけがしたり、歯を磨いたらちょっとオエツとしたりする。そういう状況で朝ごはんが美味しく食べられるかどうか。まず夜の食事をきちんと早い時間に食べて終わる。あるいは軽いものだけにしておくことによって、朝お腹が空いて、ごはんをいっぱい食べて、さあ仕事に行こう、学校に行こうと前向きに起こってくるはず。夜食べて朝ほとんど食べない状態で学校へ行くと、11時か10時頃には低血糖の状態、学校で勉強、会社で仕事をしているわけなので、そういう人が適切な判断、あるいは十分な思考力を維持するのはとても難しいこと。しかも夜食べた後、テレビ見てお風呂に入って寝るだけで体はほとんど動いていない。そんな状態で吸収された栄養分は脂肪にしかならない。朝きちんと食べておけば、その後十分に体を動かすから、酸素が十分に体の中に入った状態で燃焼されるので、完全燃焼して、たんぱく質とか免疫細胞になる。夜はこれが全部脂肪になってしまう。そういう状況で肥満が増える。また帰られたら一回朝刊を見ていただきたい。

話題1つにしても、やはり色々なことが考えられる。例えば今日の新聞にこんなことが書いてあったけど、テレビでこういったことをしましょと流せば、新聞に載っていることを見た人はたくさんみえるから頭の中に入りやすい。ずっと前にあったことを半年後にやっても頭の中から忘れてるから覚えてない。今は乳がんの女の方が若くて亡くなって、色々なことがあって話題になっている、そういう時期に乳がんの話ですればみんな一生懸命見る。勉強する。そういう時間帯をきちんと見極めて番組作りや広報活動、教育活動をしていくことが効率のいい方法になるので、みなさんが行政として市民に対峙していただくことが大事だと思う。

議長：大人は残業で子どもは塾で、なかなか時間がうまくいかない世の中なのかなと聞いていた。子どものことの話で歯が大事ということについてどうか。

委員：この健康づくり協議会に並行して、歯と口腔の健康づくり協議会を年2回開いている。

その中でまず在宅の方の口腔ケアをこれからどうしていくか、それから障がい者の方のネ

ットワークづくり、もう1点は子ども達のむし歯を減らしていこう、大体この3本柱で話を進めている。子ども達のむし歯はやはり歯みがきが大事だが、歯の質を強くするためにこのフッ化物洗口を今取り入れている。全国でむし歯の少ない県は1番が新潟で十数年前からフッ化物洗口事業を幼稚園、小学校で進めている。全国でむし歯が少ない県は全てフッ化物の洗口が始まっている県が上位。三重県はほとんど最下位。松阪がその中でもひどい状態で、教育委員会とも色々と話をし、やっと小学校で始まる体制ができてきた。小学校ではまず1学年だけということに進んでいかないが、これがどんどん進めば三重県、また松阪も全国でむし歯の少ない県になっていくと思うので、皆さんの理解を得ながら進めていきたい。

議長：他職種勉強会で歯科医から歯の大切さを伺い、内科の病気の原因にも歯が関係しており、口腔ケアはすごく大事といつも痛感している。子どもの歯の健康も大事だと思う。

委員：子どもの時に悪くなると大人になってから歯は増えないので、大人になってからどんなに頑張っても、子どもの時に習慣がないと。口の中が健康な親のお子さんは大体健康で、逆にお父さんお母さんのお口の健康が悪くてもいいお子さんもいる。これはやはり、親が一生懸命になる。お口の健康が親も悪くて子どもも悪いのは、生活環境であり変えてもらいたいと思っているが、なかなか難しいところである。その一歩としてフッ化物洗口があるが、勘違いしてもらっては困るが、したからといってむし歯がなくなるわけではない。でも、このフッ化物は歯の質をものすごく強くする。本当に出てきたばかりの6歳臼歯、一番大事な臼歯は、最初の内は本当に軟らかいが、このフッ化物をやると本当にカンカンになり、それだけでも十分効果がある。市長も「フッ化物をしたらむし歯が無くなるんやろな」というので、「違う」と答えた。その点は認識を持って進めてもらいたい。口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防のためにはやはりしっかりしていかなければいけない。今、肺炎ワクチンを進めてもらっているが、誤嚥性肺炎とはまた別問題なので、その点も注意してもらいたいと思う。

議長：健康を守っていくためには子どもが大事。そこには病気を含め、歯みがきや歩くことも含めてやはり全身に気を向ける、原点に戻らないとだめだなと。時間がありませんが、まちづくりということ、みんなに啓蒙するという意味で何か報告ないか。

委員：なるほどと思いながら改めて考えていた。例えばこの健康マイレージも三重県でがん検診の受診率を高くしたいのであれば、システムやアプリを作る時に一律に1ポイントではなく、がん検診を受けたら2ポイントになるなど、特に政策として上げていきたいポイントを少し強弱をつけて強化するのも1つの方法と思った。それからお母さん達の子育てアプリも、子どものことだけを入力ではなく、合わせて自分の健康管理も入れられ、お母さんと子どもと合わせた形で健康管理をやっていく。特に子育て中のお母さんは子どものことに一生懸命になってしまい自分自身の体を後回しにしてしまうのが実際だと思うので、こういうアプリで自分自身の健康についても考えられる、例えば今日は朝食を食べましたかみたいな質問でもいいと思う。ポイントとかアプリとか若い方結構はまっていると思うので、たくさんの人を集めて何かするのは、この頃色んな価値観があったり生活時間もバラバラで、今までみたいに集団で何かするのが難しい生活形態になっている中で、一人一

人が自分で取り組めるものとして、こういうアプリをバージョンアップしていかれるのも一つと思った。

議長：色々な工夫、みんなの心にゆらぎを与えるような。今、特定健診の真っ最中で、医療の現場でやっておられ、なかなか受診率が上がらない点についてどうか。

委員：やはり生育環境の中で、子どもが親からの教え、先生の教え、それから地域の活動、健康をつくっていくという活動を、やはり教育が非常に大切かと思った。自分の健康は自分で守っていくことを小さい時から教えていくことが今後大人になった時に、かかる時間は長い健康な松阪市がつくっていけるかと思ったので、健康を考えるという教育を小さい時から定期的にやるといいかと思った。

(2) 平成31年度健康づくり事業実施計画

〈事務局より「平成31年度健康づくり事業実施計画（案）」について説明〉

議長：平成31年度実施計画（案）について、ご意見・質問はないか。

委員：ざっとの提案でまだどうなるかわからない部分が多いので少し確認をしたい。歯と口腔の健康づくりに関して実施予定校6校あがっているが、ここにあがっていない小学校はどうなっているか。

事務局：小学校は松阪市内で36校あり、計画では6年かけて1年に6校ずつ進めて行く計画を立てている。今年の6校保護者説明会を終わり、この6校が練習をして1年生がしていくところである。平成31年には36校中2年目ということで12校の小学校をさせていただく。あとの24校につきましては順次専門委員会での次の6校を選定していく予定である。この6校をなぜ選んだかであるが、まずその小学校の地区で保育園・幼稚園でやっているところ、子ども達に負担のかからない導入という形で選んで進めている状況である。

委員：そうやっていくのはいいことだと思うが、じゃあ6年に1回やればいいのか、1年生から6年生の時にどこかで回ってくるかもしれない、ただ6年もしたら子どもの時そんなに何年も覚えてないから2年も3年もすれば、そういう体験・認識はゼロに近くなる。やはり予算が大変だとか、人数的に無理だということがあるかもしれないが、せめて半分ずつ交代で2年か3年に1回は各学校を回って、また来たわと言われるくらいの間隔で教育・指導をしていかないと、6年も経ってほとんど覚えていないと思う。三重県が全国的に低く松阪は特に低いと委員が言っておられるので、やはりこれは手薄ではないかと思う。

委員：補足させていただく。今の市の方針は、新しく1年生で入ってきた子をして、その子が2年生の時にもやり6年間続くが、今入っている2年生から6年生の子は全然経験できないのが問題である。あとの24校に関しては6年間まるっきりできないということである。本来進めるのであれば全学年を一緒に進めていくのがベストであるが、市の事情での判断だと思うが、その辺が残念なところである。

委員：フッ化物については、委員の話からも学校の協力を得ないとやっていくことができないので、今の段階はとにかく「いいなあ」ということを積み上げる時期と思っている。おっしゃるように、差ができてくることもあるが、しっかりと今を大事に育てて広げていく形で進め、教育とも十分連携をとっていきたいと思う。

委員：その小学校が非常に少ないことについて質問をしたいが、6校しかできないのは予算面でできないのか、それとも小学校がうんと言わないからできないのか、その他に理由があるのか教えてください。

事務局：この6校を決めていくのは、子どもと教育委員会で協議をしながら決めているのが現状で、先ほどの形で教育委員会から6校決めていただいている。予算面は厳しい面も確かにあるが最終的には全校やると決めているので、ある程度教育委員会と話ができるようであれば多少の融通は可能かと思う。

委員：これは歯に対して大変いいことであるから、こちらの小学校はできない、こちらはできているという不平等があってはいけないと思う。ですから全校全部やったらどうか。小学校が万が一反対するようなら、その小学校の名前を公表したらどうか。そういうのは強制的にやった方がいい、これは健康に一番いいことであるから。

委員：応援としてありがたいが、やはり学校の現場、それから保護者の方、その中で様々なことを含めて教育で色んなことをやっている状況があるので、その点は少しご理解をしておいていただきたいと思います。当然これからの健康のことはしっかりと取り組んでいくが、まずは先程も申し上げたように、フッ化物が安全で良いものだということを、きちんと今からやるところをしっかりと理解をしていただいて、「良いことをしている」となるように、まず今は頑張りたいと思っているので、ご理解いただきたい。

委員：誠にもってその意見が正解で、ところがそういう色々学校側と市側となかなかうまく接点が見つからないのが本当のところだと思う。そこは市に頑張ってもらって、子ども達のために進めていただきたいと思います。僕らも思っているので頑張ってもらいたい。

委員：医師会がやったピロリ菌検査だが、これも最初やり出したのは5年以上も前である。それを積み重ねてやっと今年を元年にしつらえたわけで、それくらい時間がかかるのは確かに分かるが、ピロリ菌検査はある程度危険も伴うとか、親の理解はなかなか難しいところがあるので運用しにくかったと思うが、この歯の健康は子どもの口の中はとっても大事なことだと思う。歯の健康という認識を持っている子どもと持っていない子どもでは、おそらく寿命も変わってくる。親が自分の子どもの健康のためになることを拒否するということは、1人や2人、10人や20人いるかと思うが、千何百人のうちの数人であって、大抵の方は自分の子どもは健康で成長してほしいと願っているはずなので、やはり教育委員会としっかり話し合いをしてもらうことによって、少しでも子ども達の歯の健康に対する理解を持たせる試みは大事なことです。今新聞を見ててもフッ化物について何回か出てきておりメディアを使っていくことも大事だが、実際現場ともしっかり話し合いをすれば理解は深くなるはずなので、やはり行政は縦つながりで横つながりが全然ないのかとなってしまう。健康づくり課は一生懸命やっても教育委員会はしていないということが起こっているのでは、教育委員会の責任問題になるわけなので、やはりそういったことも十分教育委員会に理解してもらわないと、子ども達の健康を取り戻すための方策なので、ぜひとも頑張って進めていただきたいと思います。

委員：子育てママの現場の声をお伝えする。インターネット情報に翻弄されている。フッ化物が本当にいいのだろうかとか子育てママの間でも議論がすごくあり、もちろん絶対受けさ

せた方がいいという方と、体に入れるのはと拒否される方もおり、色んな価値観の中で子育てママはすごく迷って見える。今委員がおっしゃったように、フッ化物が本当に子どもの歯の健康と、寿命を延ばすという良い部分があるのなら、本当に良いんだという確証・確信が持てるレクチャーがほしいというのが正直なところである。ちょっとまだあやふやで本当にいいのかというところで反対される方もいると思うが、もう少し映像的なところでフッ化物をやった方がいいと思えることをされた方が、みなさん進んでやられると思う。

委員：フッ化物洗口事業の普及を僕らはずっとしているが、それが広がらない。色んな会議で学校の方に来ていただいてレクチャーをしているが、そこから広がらない。松阪市、明和町、大台町、多気町の幼稚園・保育園では、始まってもう5～6年になるが、現状として学校では進んでいない。受ける側と一緒に共有してやっていこうという気がないと進んでいかない。

議長：こういう話が出たということはまたあげていただきたい。

事務局：本当に歯科医師会の先生方には熱心に保育園・幼稚園・小学校で、学校の先生や教職員の先生にもレクチャーをしていただき、保護者説明会も今日も午前中も昼からも行っていただいているが、本当に丁寧にお母さん方の疑問に答えてご指導いただいている。学校の先生も、協力してくださる先生もすごく増えており今年はずごく大事な1年目だと思っている。今も6校ずつで本当に遅々たるものだが、保護者の方々からもぜひ私たちの学校でも早くやってほしいという声も聞かせていただいているので、始まってしまえばどんどん進んでいくのではないかと期待しており今後とも努力してまいりたい。

議長：ピロリ菌の時も保護者のお母さんと1対1で、ふっと腑に落ちてもらったら、みんなに言ってあげよという気持ちが出てきたので、やはりこういうのが大事と思っている。今日の会議でみんながこのように心を砕いて意見が出たことをぜひお伝えいただきたい。

委員：補足になるが、全国の体育協会が去年からスポーツ協会という名前に改められた。松阪はまだ体育協会であるが、その中で子どもの歯並びとパフォーマンスについて色々研究している中で、段々と小顔の子が増え歯並びが悪い、奥歯の噛みしめが悪くてパフォーマンスが出ないことが最近非常に多く、スポーツ選手のセンスのある子が歯が原因で力が出ない。プロゴルファーもドライバーでマウスピースを加えてドライバーショットをさせると、10ヤードよく飛ぶ。健康だけでなく、スポーツのパフォーマンスの中でも、いかに歯が大事かということを伝える場をたくさんもって話をさせていただいたらと感じた。

議長：非常に貴重なご意見をいっぱいいただき、もっとお話を聞きたいがいかがか。

委員：子どもの健康で色々取り決めが行われていくが、急性疾患を患った普段は健康な子どもについては色々項目が出てきているが、慢性的にいわゆる障がいをもった子どものことについてはほとんど入っていない。これは健康づくり課の仕事ではなくここでそういう話が出ないというのは分からないわけではないが、子どもの健康においては、例えば今はダウンの子ども達がたくさん見える。大体人口の5%くらいは障がいを持ってみえるということも分かっている。市内だけでも数千人の子ども達が障がいを持った状態で仕事に就かず家の中で生活をしているということもある、そういう人達が日の目を見ないということはあるはずではないか。誰しもが100%市民として楽しく生活できる状態をつくっていか

くてはいけませんが、障がいを持った子達に対する思いやりが、他の課で十分やられてないとは言わないが、ただ子どもの健康という意味からは、ここの中での話し合いもある程度あってもいいのではないかと思う。ダウン症は免疫力が非常に弱いので風邪をひきやすいとかインフルエンザにかかりやすいといったことも十分考えられる。今ここでダウン症の方は何人把握しているかと聞いても答えられないと思うが、明らかに体の弱い状態で今松阪で生活をしているので、そのまま見逃しておくのはやはりこの健康センターの役割としてまずいのではないかと思う。やはり慢性的な弱者である障がいを持った子ども達が本当に健康的な形で生活しているかどうか調査もある程度して、どれくらいの有病率があるか、どういう生活をしているのかを把握しないと、松阪育ちの丘、あゆみなど障がい者の施設ができていて、学校にいる子はまだ大丈夫だが、いない子がどれくらいいるかわかってないと思う。そういったことも十分わかるようにしていくといいと思う。

全然話が違うが、バラエティー番組で健康について、この食べ物は食べてはいけない、あるいは良いと言うと全国的にすぐ広まる。スーパーのトマト売り場のトマトが全部無くなる、そういうことがあるが、フッ化物がどうかについて、松阪市はだいぶ前から取組みをやっているが、新潟県は10年以上前からやっている実績がある。専門家がフッ化物の有用性を言うのは、大きなバックグラウンドとして実績があった上での話である。バラエティー番組で言っていることと、委員が言っていることは全然中身が違う。きちんとした色んなデータを基に言っていることを親の会でどうかと議論をすること自体が我々にとってはおかしい。それは例えば1万人にしたら1人くらいの副作用が出るかもしれない。どんな薬を飲んでいても数%の、あるいは0.01%くらいの副作用というものはある。だから絶対ないとは言えないが非常に少ない確率で、それ以上にその薬によって効果が表れることは十分分かっているのだから、それを飲んだら悪くなるということではない。実際、風疹が今また流行っているが、これも集団接種を一時やめた時代の子ども達が今母親になって子どもを産む時に大騒ぎする、そういう弊害が30年後に出てきている。正しい知識をきちんと取り入れて、もし親が心配しているのであればきちんとした人に話をさせていただくことが大事なので、前向きに取り組むのが大事だと思う。

委員：不勉強で大変失礼しました。ありがとうございます。

議長：非常に長時間に渡り熱心なご審議をありがとうございました。まだまだ話はしたいと思うが、次回お会いできることを楽しみにしたい。本日の協議会はこれにて閉めさせていただきます。みなさん、どうもありがとうございました。

3. その他

事務局：ありがとうございました。来年度の協議会は引き続き皆様にお申ししいし2回の開催を予定している。「第2次計画」推進の3年目ということで、委員の皆さまにいただいたご意見を参考に健康づくりを推進してまいります。

これもちまして、平成30年度第2回松阪市健康づくり推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

〈15:10 終了〉